資料６

ウミガラス保護増殖検討会　　2021年1月28日（木）

令和２年度国指定天売島鳥獣保護区海鳥被害モニタリング調査等業務

NPO法人EnVision環境保全事務所

業務概要

１）自動撮影カメラによる生息状況調査

２）踏査による食害状況のモニタリング調査

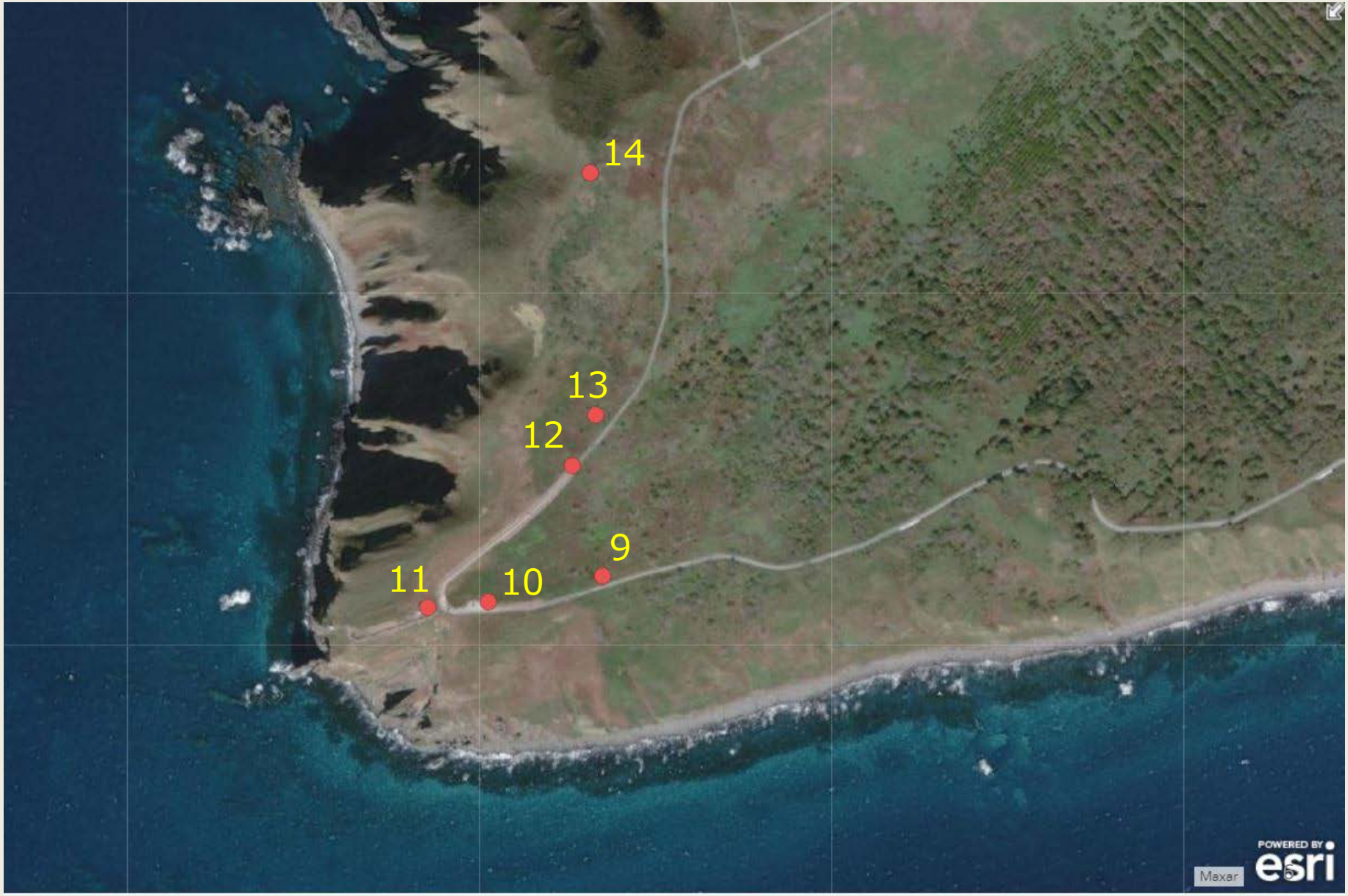
３）モニタリング手法の検討及び周知

自動撮影カメラの設置場所

自動撮影カメラの設置場所（黒崎）

設置場所の環境（黒崎）

自動撮影カメラの設置場所（赤岩）

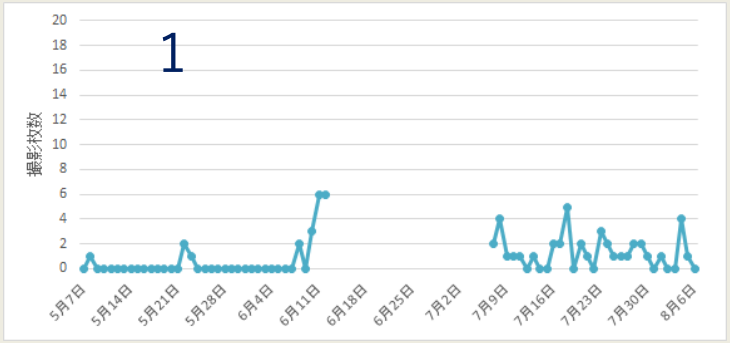


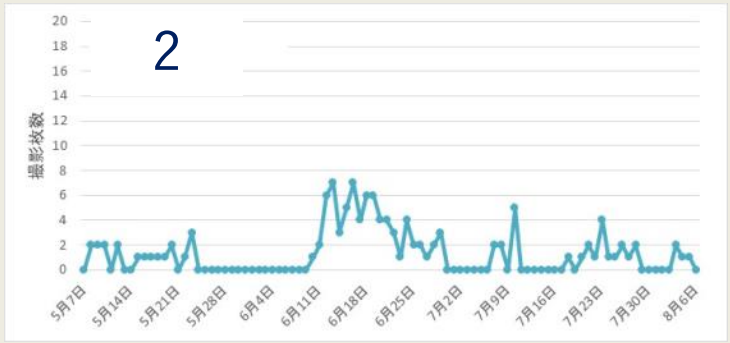
設置場所の環境（赤岩）

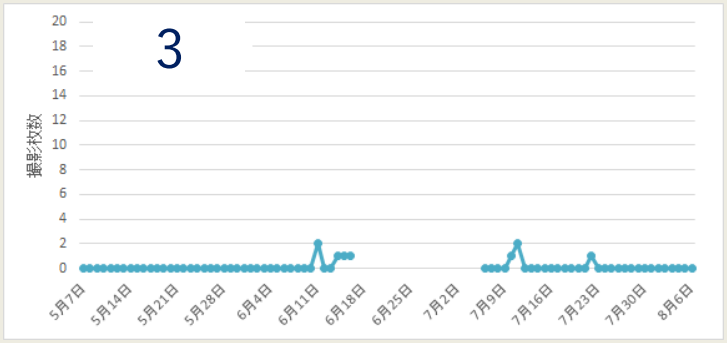
自動撮影カメラに写った画像

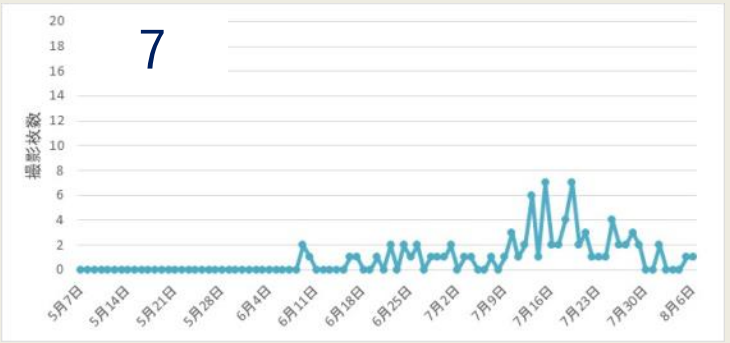
自動撮影カメラに写った画像

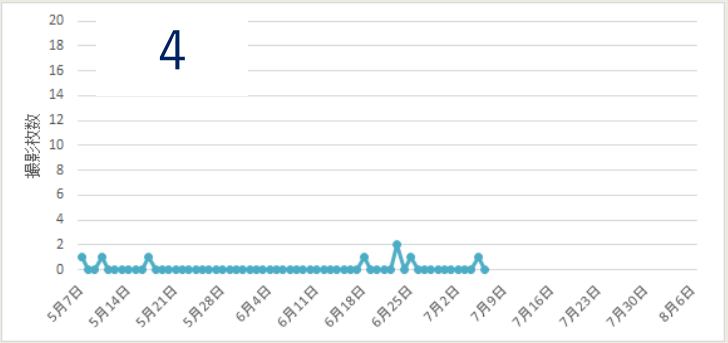
自動撮影カメラの結果（黒崎）

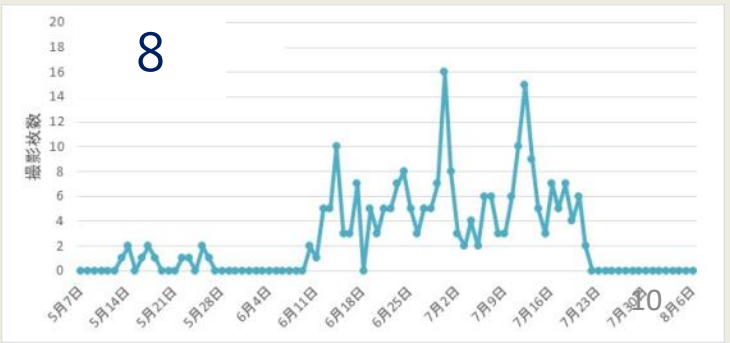




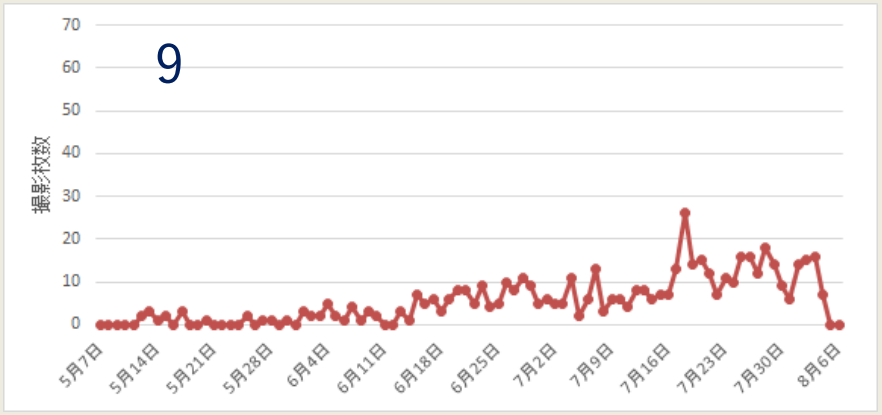


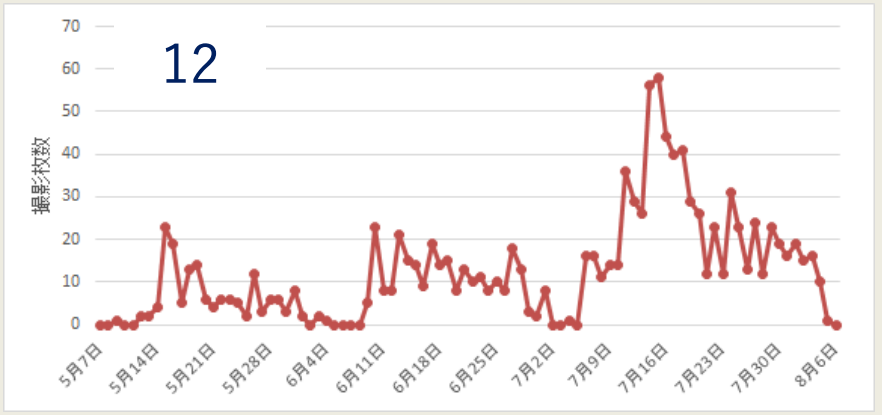


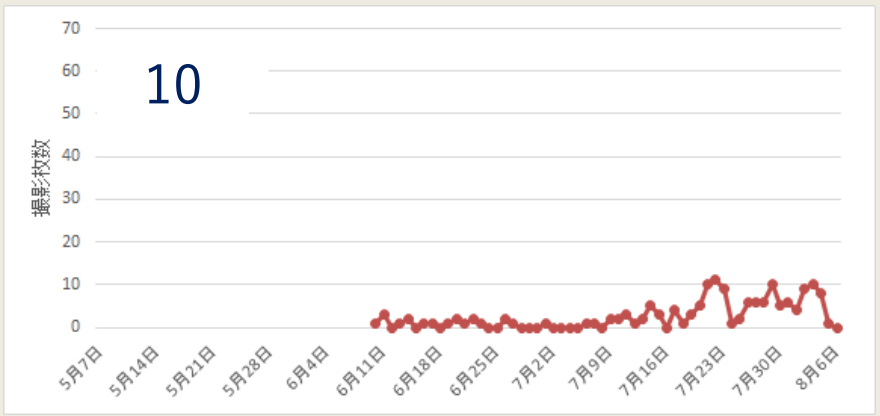


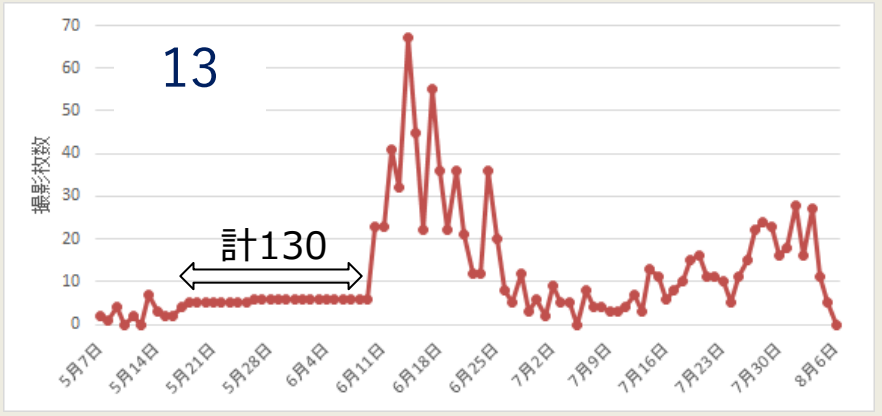


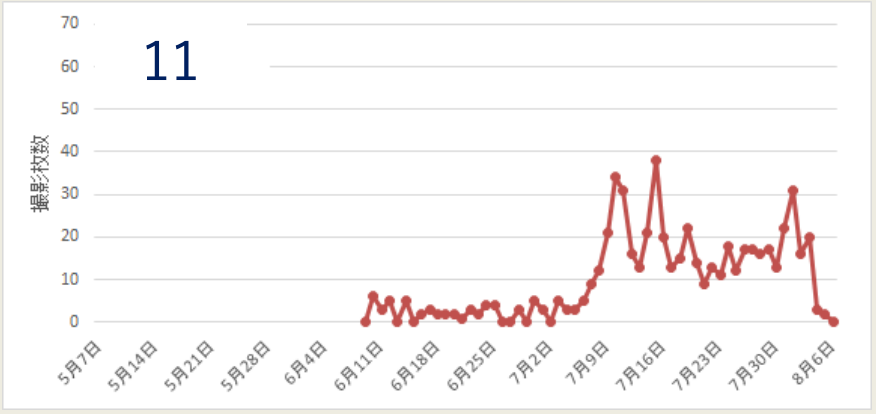
自動撮影カメラの結果（赤岩）

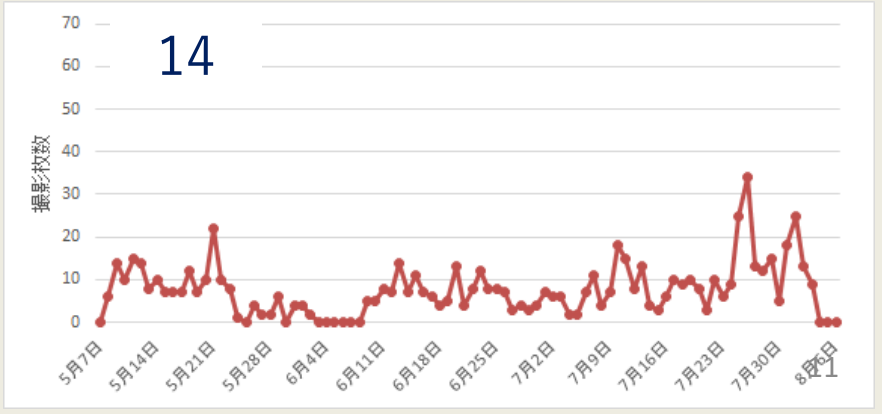








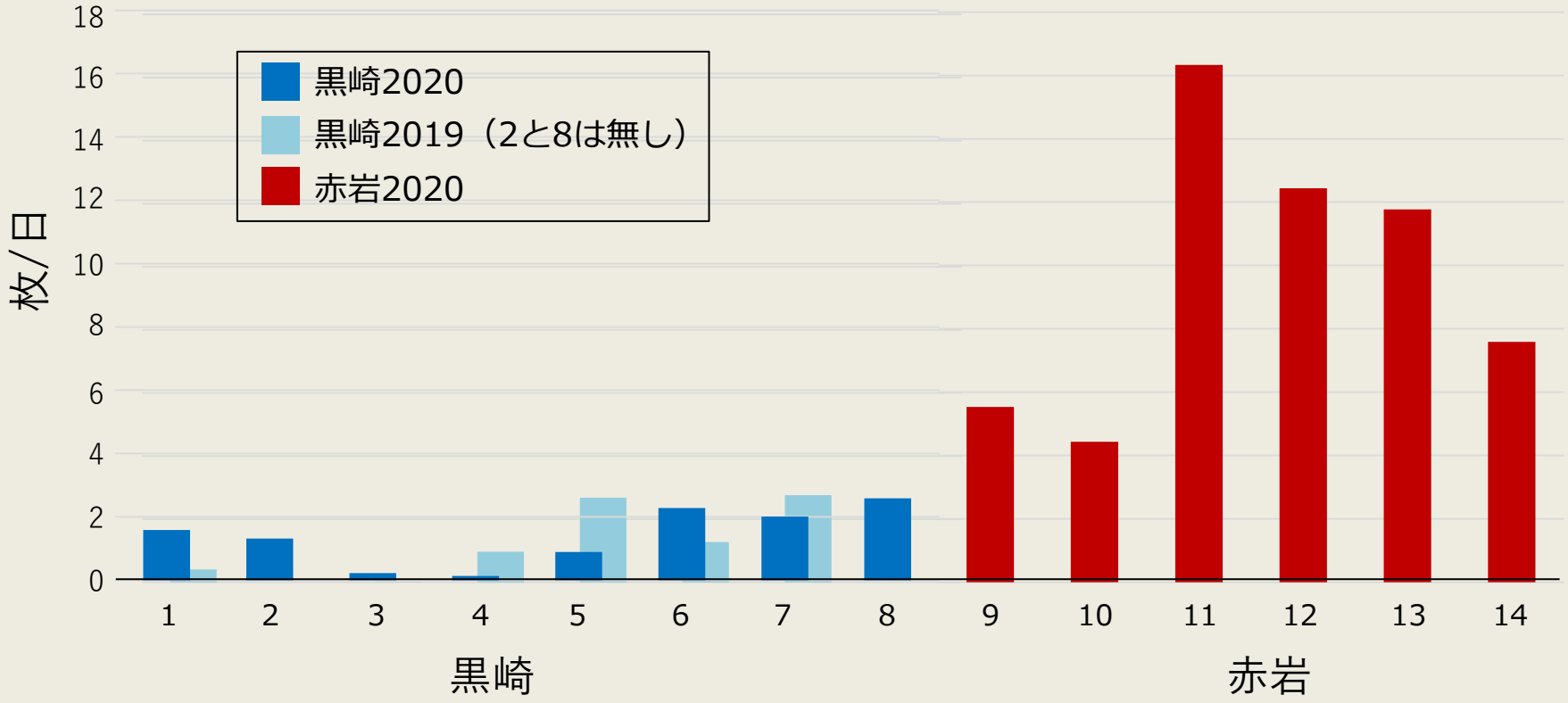




赤岩・古灯台（2020年6月）

道路上を歩きまわるドブネズミ（2020年6月）

ドブネズミの撮影頻度


18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
枚/日
黒崎2020
黒崎2019（2と8は無し）
赤岩2020
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
黒崎
赤岩

ウミガラスの繁殖巣棚への侵入

自動撮影カメラの設置場所

食害状況のモニタリング調査

☑ ウトウ繁殖地およびウミネコ繁殖地の周辺に、約500mの踏査ルートを設定 。道路上、および道路脇から5m程度を目安に、巣立ち雛および成鳥の死体を探す。
→　できる限り死体は除去する。

☑ 死体に食痕らしき形跡がないか調べる。形跡が認められた場合には、その形状からドブネズミによる食痕（門歯痕）であるか否かを評価する 。

※　可能な限り、発見した死体の日齢や栄養状態など、個体の生活史に関わる情報を収集する 。

→　モニタリング手法の改訂・共有

踏査による食害状況のモニタリング調査

約500m、2020年7月6～8日に実施

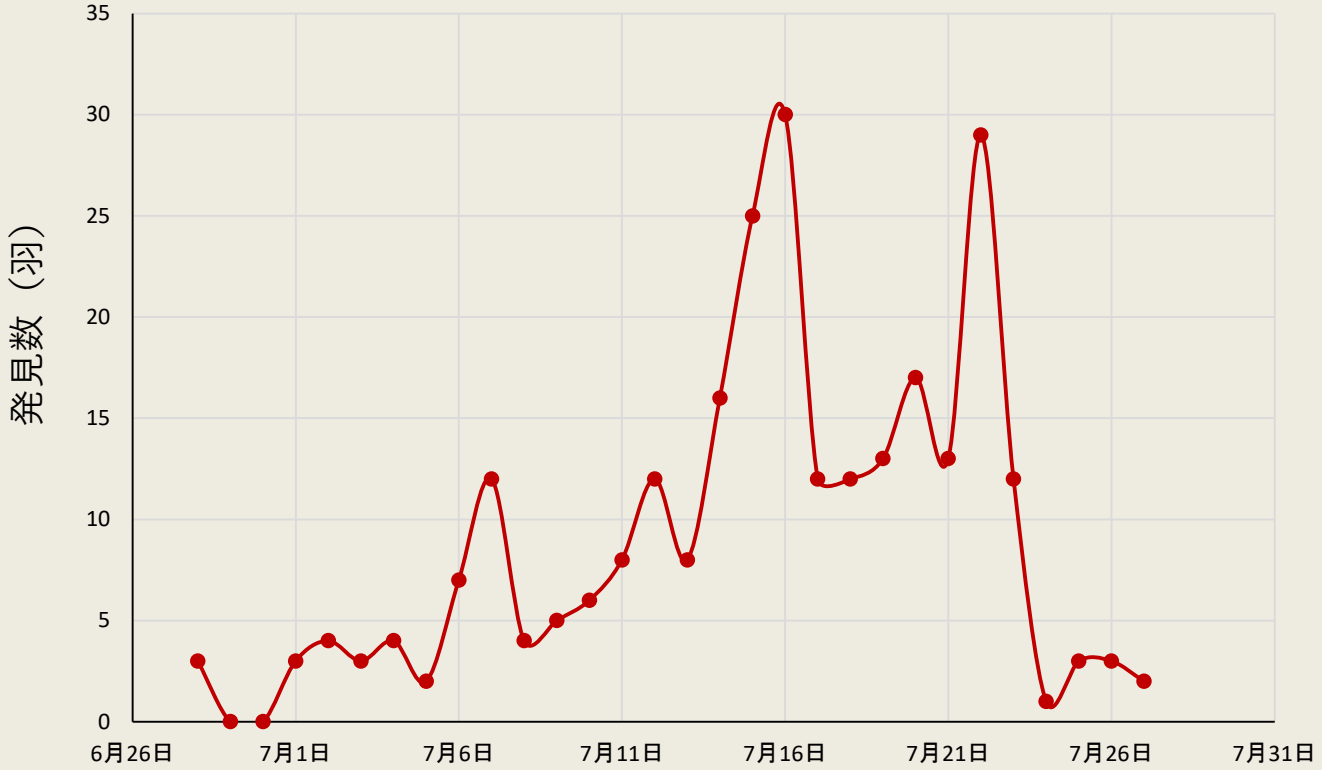
ウトウの巣立ち雛の死体

ドブネズミによるものと思われる痕跡

ウトウ巣立ち雛の死体の特徴

死体の確認状況

大門純平氏（北大・院・水産科学院）による調査



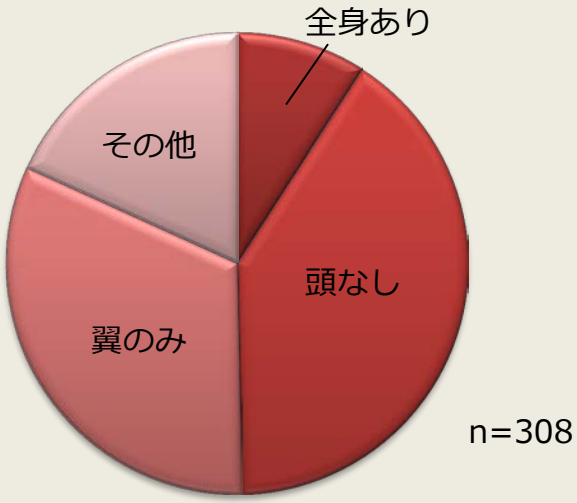
→　計320体を収集

死体の確認

・死体の残存状態
　　全身、頭無し、翼のみ、その他（脚など）
・捕食部位
　　頭部、胸部、腹部、背部、無、不明
・門歯痕
　　首、胸骨、その他、無、不明
・翼の形成
　　0%、20%、40%、60%、80%、100%

死体の確認

・死体の残存状態



・門歯痕
　37/308体　約12％